ふかまちのまど
第三一号
九六年十一月一日

反乱

斎藤哲三

今日の大きな問題というのは、先達たちの過ちの反省からでなければならない。それは時代の趨勢でもあったが小数精鋭主義に憧れた　いやがうえにもの特訓、　即ち、その周辺達の一種のエゴから英才教育に偏ってしまったきらいが多分にある。

反面、その為にとり残されたグループ達にはあまり目をかけられなかった。そのうえ、過酷なテストは偏差値で区分されたりした結果、彼等は勉強が楽しい筈はなかった。

そこで、いたゝまれず親や、先生達の手のつけられないような無言のクーデターならぬ反乱をおこしてしまった。

先程述べた工夫とは、先ず今までの学習の視点を変えてもらいたいことである。早い数合わせと、多くを記憶する児童から、復習と予習の習慣を身につける児童えの変更である。

いかに秀才といえども復習、予習の習慣を身につけ得ない児童は落ちこぼれる危険性さえある。▲▲

登校拒否やイジメ等の防止対策で、溌溂とした人間性と豊かな個性造りは従来の学習方法でもそれを阻止してはならず、その為の登校拒否も容認せざるを得ない、という風潮は一時の緊急避難的な処置としては認めざるを得ないにしても、今後の教育方針とするのは問題である。

それは義務教育の否定と退化につながるもので、なんとしても従来の学習方法を優先してもらいたい。「親の言うことはきかないが真似はよくする」この言葉は子どもの性格をよく表現したものである。

子どもとは模倣者である。よってそれを創造者的に要求したり、育成していくことは至難の技である。個性又は人間性は低学年代に造りあげていくものではなく、半生又は一生を通じて、できあがるものである。

だが学問の基礎は低学年代にみっちり身に着けなければ機を逸するおそれが多分にある。だから、この年代にでき得るならば、勉学は充分理解でき、面白く楽しいものであり進んで勉強できるような習慣を身につける工夫をしてもらいたい。楽しい学舎に決して今日の忌まわしい事件はないと思う。

深の歴史を終えて

高崎壽郎

深の歴史を十二回に亘って書きましたが、この間多くの方々の数々のご助言、ご協力、ご声援をいただき心より感謝申し上げます。

深の歴史を無事脱稿できたのは、多くの方々のお陰であり、先輩が残された「深郷土誌」もその一つです。又、深小学校より「深の歴史について話してほしい」と依頼されたのも調べる動機になりました。有難うございました。

さて、住民サイドの資料が少ないこともありますが、取り上げた歴史に明るいものが少なかったことも事実です。

戦後の農地改革を経て農村では、やっと人間らしい生活ができるようになったと私自身は認識していますが、先人が過ごされた世の中は、おそらく血と汗と涙の苦難と試練の歳月だったと推察されます。

歴史を調べれば調べる程、幾多の困難をじっと耐え克服してこられた先人の姿が脳裏に浮かび、その底知れぬエネルギーをひしひしと強く感じるのです。

苛酷な労働の明け暮れではありましたが、その内にもより良い生活、より豊かな村を願い、信じ、知恵を出し力を合わせてこられた先人には脱帽の他ありません。

最近では「高平ダムの建設」「如水館高校の深町への移転」「太郎谷バイパスの開通」と明るい展望がみえて参りました。

私たちは、先人が残された歴史を貴重な教訓にし、更に充実した生活や郷土づくりに生かしていきたいものです。

尚、これを機に更に

・地頭職石原氏のその後
・深村年貢考
・享保の大旱魃と深村
・深の産物・方言・堂宇
・明治時代の学校のようす
・昔の遊び

などを調べてみたいと思います。▲▲

深の方言「なまりについて」

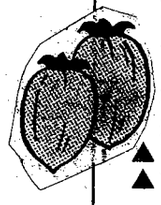
石井良雄

深郷土誌編集を機会に、郷土の方言なまりを集めてみたいと思います。

「あ」

あいだ――あ(飽)きた
あがりはな――玄関の上り口
あこうなる――明るくなる
あすびごと――遊戯
あずる――てこずる
あせる――いらいらする
あぜまめ――枝豆
あたがる――因縁をつける
あだになる――無駄になる
あだれる――散る・落ちる
あちい・ほがる――熱い
あっこ――あそこ
あてがう――見計らう
あみゃー――甘い
ありゃーの――あのね
ありんこ――蟻
あんがい――以外
あんぎゃーに――あのように
あんびん――あんこ餅
ありゃりゃー――あらあら

右のように「あ」から順に載せますので、お気付きの点はご遠慮なくお知らせ下さい。☎六三―三九一七　石井まで▲▲



秋祭りのおネ

千川神社役員一同

五穀豊穣・家内安全を祝っての秋祭りも、町民皆様多数のお参りにより盛会裏に終わることができました。心より感謝申し上げます。

又、宮入費につきましては、多額のご出宝をいただき有難うございました。

協賛演芸会につきまして、ご意見ご感想などありましたら各組役員までお寄せください。▲▲

市民体育大会参加報告

（実行委員会会長　梶谷和伸）

絶好のスポーツ日和の二十七日、三原運動公園で恒例の市民体育大会がひらかれました。

例年は一〇日ですが今年は国体会場の関係で繰り延べ実施となりました。

当深町は、皆様のご協力で全種目参加することができました。厚くお礼申し上げます。種目別結果は次の通りです。

☆小学生混合リレー（小学生男女）――五位
☆四〇〇mリレー（小・中・一〇才・二〇上の女）――五位
☆ビーチボール跳り競争（四〇上女）――失格
☆スエーデンリレー（小・中・一〇才・二〇上男）――三位
☆ゲートボール・グランドゴルフ競争（六〇上男女）――失格
☆四〇〇mリレー（中学女）――五位
☆八〇〇mリレー（中学男）――一位
☆ラグビーボール跳り競争（五〇上男）――三位
☆四〇〇mリレー（一〇〇才・二〇～三〇才男）――四位
☆ボーリング競争（三〇上女）――四位
☆四〇〇mリレー（三〇～四〇才男）――三位
☆紅白タマイレ（小・中・一〇～男女）――五位
☆紙跳びトラック競争（男三〇上・女二〇上）――二位
☆四〇〇mリレー（四〇～五〇男）――四位
☆四〇〇mリレー（五〇上男）――三位
☆紅白玉入れ（四〇上男・二〇上女）――四位
☆二人三脚百足競争（三〇上男・二〇上女）――四位
☆総合リレー（小学生～六〇上男女）――二位

※応援も含め参加人員は約一一〇〇人でした。▲▲

お悔み申し上げます

★梶谷良夫様　八六歳　二八日

町内行事予定

◆小学校（幼）
▼陸上記録会　一日　▼新入園児受付　五日～八日　▼体重測定　一四日　▼第一次学習発表会　二七日　▼市P連バレー大会　三日　▼市P連研究大会　一六日

◆子ども会
▼三原市子ども会創作大会　二四日

◆女性会
▼親睦会　上　二二日・中二日・下一日　▼農業祭参加　下旬　▼グリーンデイ　中旬

◆消防団
▼全国火災予防運動　九日～一五日　▼大実戦訓練　六日

総選挙余聞

◇深町総人口――九七六人
◇有権者数――七五六人
◇投票者数――四九六人
◇投票率――六五、六％

席望展

○×改革流行の昨今です。新聞・週・月刊誌からTVに至まで取り上げ方は様々で、賑やかなことです。今回の総選挙でも、熱っぽく語られました。素直に聞く限り改革間違いなしの印象です。税金の無駄使いは止め、国家国民のために使うと言われますから、私の一票もそんな人に入れました。▼私達はこの四年間、いろいろな政治芝居を観て来ました。主役の交替は五回でしたでしょうか。その中には、一般国民では想像もできぬ茶番劇もありました。政治家のみなさん方が想像するほど国民の目は曇っていないようです。▼総選挙で役者の皆さんが訴へられた改革や、利益誘導は額面割れで国民には受け止められています。被災地神戸では、公的助成を叫んだ「芸人」もいたとか。▼手元の新聞スクラップに、カナダ、ニュージランドの行財政改革のレポートがあります。「改革貫徹に政治の勇気」・「首相主導で『壁』越える」。こんな見出しです。歳出平均二一％圧縮・連邦職員一五％削減と、活字が踊っています。「一年かけて具体的に検討する」。この台詞はもう古い。